

令和3年度 自己評価表 (最終)

中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標	実績値			目標値			評価 (自己評価の結果)	改善策
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
信頼される「わくわくする」学校となる。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員による不祥事を0(ゼロ)にする。 業務改善を進める。 保護者が相談しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。 地域や学校外の人材を活用した授業を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の服務研修の確実な実施と過去の事例と防止策を研修内容として取り入れる。 会議は内容を確認し、必ず始まりの時刻と終了の時刻を設定して行う。 定期的な「便り」の発行やHPの更新を行い、取組状況や児童の状況をタイムリーに発信する。 各学年で、地域・保護者連携を行い、地域や学校外の人材を活用した授業を行う。 	不適切事案の発生数 時間外での会議の回数 学校満足度 活用回数	0件 0回 93% 各学年1回以上	0件 0回 91% 各学年2回以上	0件 0回 92% 各学年3回以上	0件 0回 学校満足度 92.5% 地域の人材活用状況 1年生 1回 2年生 7回 3年生 3回 4年生 3回 5年生 6回 6年生 9回	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の服務研修を継続することで、職員全員で不祥事防止の意識を継続させる。 時間の設定を確実にを行い、時間外の勤務を減らす。計画的に各々が時間を意識して効率よく働く。 定期的に児童や学校の様子を発信し、日頃から連携を密にしていく。 各学年の計画を見直し、計画に沿って、計画的に外部の人材を招聘する。新型コロナウイルスの状況を見極めながら積極的に外部人材を活用する。 			
児童の学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 考える・対話する授業を全ての教科・領域で展開し、児童の資質・能力を育成する。 自主学习等自ら学習する習慣をつける。 生活科、総合的な学習の時間を中心に探究的な学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書に取り組むなど、学習した単元以外に学びを生かす場を設ける。 しっかり読み込んで回答する調査の傾向に慣れさせる。 自主学习コンテストを実施し、学習内容等を交流することで、学習意欲の向上を図る。 タブレットドリルを活用し、自分で計画的に学びを進める経験を積み上げる。 暗唱に取り組ませる。 「カリキュラム・マネジメント」を実施し、教科横断的なカリキュラム設計を行い、効果的な指導を実施する。 「PBL(プロジェクト型学習)」に関する研修を行い、探究的な学習を計画的に実施する。(各学年1単元開発) 	標準学力調査正答率60%以下の割合 児童アンケート肯定的評価の割合 児童アンケート教師アンケート肯定的評価の割合	43.6% 89.0% —	35%以下 90% 80%	30%以下 91% 82%	全体 32% 国語 29% 算数 26% 理科 43% 85% 児童 87% 教師 56%	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度、活用の時間を設ける。国語科：字数や根拠など条件を設けて書く活動に取り組みさせる。算数科：解き方を言葉や図にあらわして説明する経験を積みさせる。理科：自分の考えを図に表したり書き込んだりして、思考する経験を積みさせる。 自主学习では、量や頻度等の系統性をもたせる。 暗唱は児童の実態に沿った課題を提案する。 研究授業を通して学びを深める。 「探究的な学び」を具体的に構想する研修を計画し、各教員が具体的な実践を行うことができるようにする。 			
児童の豊かな心を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識を向上させ、毎日を気持ちよく過ごす児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ほめる」ことを基本とした評価を行う。 自分は「時間を守る」「大きな声で返事・挨拶ができる」という自信をつける。 整理整頓や静かな掃除を意識させる。 学校・地域貢献活動を行う。 自己を見つめる道徳科の授業を行う。 	掃除に関する児童アンケート肯定的評価の割合	79%	85%	90%	89%	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ掃除も落ち着いて取り組めるようになってきている。掃除に必要なことや注意しあう声は、小さな声で伝達し合うようにさせる。 生活目標に掲げられた時はかなり意識して取り組める。みんなが呼びかけ合い意識させる。 			
児童の体力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 握力及びボール投げの種目において、体力向上を図る。 健康体力を高めるための生活習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 業間運動を継続的に行うことで、「握る・つかむ」、「投げる」などの基礎感覚や動きの習得を促し、基礎体力の向上・定着を図る。 運動の幅の拡充を図るために、主として体力づくり運動系の領域に視点を置きながら授業改善を図る。 生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調べを行う。 	・新体力テスト・各学期の再計測の全国平均を上回る割合 ・児童アンケート運動好きと答える児童の割合 生活カード	70.8% — 76.9%	66% 80% 86%	67% 85% 87%	69.4% 92% 76.7%	<ul style="list-style-type: none"> 体育委員を中心に、投げ方の動画や目標物を作り、投げる力を伸ばす。 「ボール投げ」に対する職員研修を実施するとともに、児童に投げ方の手本を見せる指導により、数値が向上した。「握る」種目も取り入れて取り組んでいく。 楽しんで体を動かせるような、体育の授業改善を行う。 家族も夜型の傾向があるため、引き続き生活カードで意識付けを行い、保健だよりや学級通信で呼び掛けを行う。 			

